

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和37年度契約地								
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数182件 契約面積6,848ha 植栽面積 スギ 1,972ha ヒノキ 2,464ha マツ 2,172ha カラマツ 5ha								
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。								
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		斐伊川水系布部ダム、仁淀川水系大渡ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち33%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち37%が存在している。								
事業の進捗	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：97%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計	
			スギ	18.4m	25.4cm	368m ³	4%	6%	10%	
			ヒノキ	14.2m	20.4cm	245m ³	4%	3%	7%	
			マツ	14.2m	21.7cm	176m ³	5%	1%	6%	
	カラマツ	13.5m	20.0cm	160m ³		25%	25%			
					4%	4%	8%			
			平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。							
	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は8%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が44%と大半を占める。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が49%と大半を占める。								
状況	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：3%)	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ			小計
			スギ	9%	91%					100%
			ヒノキ	13%	87%					100%
			マツ							
			カラマツ							
			その他							
計	12%	88%				100%				

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 なお、雪害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和42年度契約地									
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数135件 契約面積3,190ha 植栽面積 スギ 743ha ヒノキ 1,551ha マツ 711ha									
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。									
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		那賀川水系早明浦ダム、斐伊川水系布部ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち28%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち32%が存在している。									
事業の進捗	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：96%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良				
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計		
			スギ	18.7m	24.6cm	394m ³	1%	2%	3%		
			ヒノキ	14.0m	20.8cm	273m ³	4%		4%		
			マツ	13.9m	20.4cm	208m ³					
						2%	1%	3%			
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。											
	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は3%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が44%と大半を占める。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が49%と大半を占める。									
状況	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：4%)	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分) 樹種別に不良の割合をみると、スギで23%、ヒノキで30%、樹種計で28%である。		
				良	普通	不良 広葉樹化 生育遅れ	小計				
			スギ	77%		23%	23%	100%			
			ヒノキ	70%	25%	5%	30%	100%			
			マツ								
			カラマツ								
			その他								
計	72%	19%	9%	28%	100%						

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されていない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 なお、雪害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和47年度契約地									
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数207件 契約面積6,572ha 植栽面積 スギ 905ha ヒノキ 3,609ha マツ 1,071ha カラマツ 3ha									
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村者所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。									
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		斐伊川水系布部ダム、那賀川水系池田ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち32%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち30%が存在している。 水源の森百選の「十種が峰水源の森」に水源林造成事業地の一部が含まれている。									
事業の進捗	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：96%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良				
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計		
			スギ	16.9m	21.0cm	331m ³	3%	2%	5%		
			ヒノキ	12.4m	17.0cm	218m ³	2%		2%		
			マツ	13.3m	19.6cm	188m ³	2%		2%		
			カラマツ	12.0m	14.6cm	136m ³					
			計			3%		3%			
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。											
		広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は3%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が44%と大半を占める。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が49%と大半を占める。								
状況	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：4%)	樹種	生育状況					計	計	
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計			
			スギ	20%	54%		26%	26%			100%
			ヒノキ	34%	64%	2%		2%			100%
			マツ		100%						100%
			カラマツ								
			計	33%	63%	2%	2%	4%	100%		
樹種別に不良の割合をみると、スギで26%、ヒノキで2%、樹種計で4%である。											

(注)生育状況の基準
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されていない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留 意 事 項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 なお、雪害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和52年度契約地										
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数96件 契約面積2,598ha 植栽面積 スギ 656ha ヒノキ 1,419ha マツ 6ha その他 2ha										
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。										
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		斐伊川水系布部ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち28%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち32%が存在している。										
事業の進捗	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：91%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良					
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計			
			スギ	14.5m	18.2cm	271m ³	2%		2%			
			ヒノキ	11.2m	15.4cm	192m ³	2%		2%			
			マツ	14.0m	19.9cm	223m ³						
	計				2%		2%					
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。												
	広葉樹林化した林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は2%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が44%と大半を占める。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が49%と大半を占める。										
状況	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：9%)	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)			
				良	普通	広葉樹化	生育遅れ				小計	
			スギ		100%							100%
			ヒノキ	7%	85%	5%	3%				8%	100%
			マツ									
			カラマツ									
			その他		100%							100%
計	5%	88%	4%	3%	7%	100%						
樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで8%、樹種計で7%である。												

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 なお、雪害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局 昭和57年度契約地								
契約件数・面積及び	契約件数63件 契約面積1,543ha								
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	<p>中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>中国四国整備局管内の公私营別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>								
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	<p>那賀川水系池田ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち30%が存在している。</p> <p>簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち20%が存在している。</p>								
事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで5%、ヒノキで6%、樹種計で6%である。</p>	
			良	普通	不良 広葉樹化 生育遅れ	小計			
		スギ	25%	70%	2%	3%	5%		100%
		ヒノキ	22%	72%	1%	5%	6%		100%
		マツ							
		カラマツ							
		その他		100%					100%
		計	22%	72%	1%	5%	6%		100%
事業コスト削減の可能性	<p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。</p> <p>また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>								
景観への配慮	<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>								
関係者の意見・意向	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。</p>								

	留 意 事 項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和62年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数82件 契約面積1,548ha 植栽面積 スギ 272ha ヒノキ 931ha その他 5ha							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		<p>斐伊川水系布部ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち21%が存在している。</p> <p>簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち19%が存在している。</p>							
事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで3%、ヒノキで2%、樹種計で2%である。</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	9%	88%	1%	2%	3%		100%
		ヒノキ	16%	82%		2%	2%		100%
		マツ							
		カラマツ							
		その他		100%					100%
	計	14%	84%		2%	2%	100%		
事業コスト削減の可能性		<p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。</p> <p>また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>							
景観への配慮		<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>							
関係者の意見・意向		<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。</p>							

	留 意 事 項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。</p>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 平成4年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数107件 契約面積1,701ha 植栽面積 スギ 211ha ヒノキ 1,143ha マツ 1ha その他 42ha							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		<p>江の川水系八戸ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち48%が存在している。</p> <p>簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち21%が存在している。</p>							
事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで8%、ヒノキで4%、その他で3%、樹種計で4%である。</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	14%	78%		8%	8%		100%
		ヒノキ	17%	79%		4%	4%		100%
		マツ		100%					
		カラマツ							
		その他	18%	79%	3%		3%		100%
		計	17%	79%		4%	4%		100%
事業コスト削減の可能性		<p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。</p> <p>また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>							
景観への配慮		<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>							
関係者の意見・意向		<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。</p>							

	留 意 事 項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。</p>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 平成9年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数129件 契約面積1,804ha 植栽面積 スギ 247ha ヒノキ 1,219ha その他 49ha							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお5万3千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）1万1千ha、保安林以外の面積（推計）3万7千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		那賀川水系早明浦ダム、斐伊川水系布部ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち37%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち43%が存在している。							
事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	13%	82%		5%	5%		100%
		ヒノキ	9%	88%		3%	3%		100%
		マツ							
		カラマツ							
		その他	2%	94%		4%	4%		100%
計	10%	87%		3%	3%	100%			
		樹種別に不良の割合をみると、スギで5%、ヒノキで3%、その他で4%、樹種計で3%である。							
事業コスト削減の可能性		<p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。</p> <p>また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>							
景観への配慮		適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。							
関係者の意見・意向(注)		周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。							

(注)関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

	留 意 事 項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。</p>